

1-12 頁

大正時代における日本のシェイクスピア受容について文献と上演史を中心に論じた。これまであまり注目されていなかった劇術会にも焦点を当てた。劇術会は文芸協会解散後、坪内逍遙が中心となって結成された劇団であり、昭和に入ると地球座へと坪内訳・加藤演出のシェイクスピアは受け継がれていくことになる。また、研究分野では、本格的な劇場研究が生まれることになったことも大きな特徴である。(A6)